

IBS フェローシップ活動報告

IBS は、わが国の学術研究活動に寄与することを目的として、研究助成制度（IBS フェローシップ）を実施している。これは、IBS の創立 30 周年を記念して創設されたもので、1994 年度より第 1 回目開始された。以降、毎年 2 課題についてそれぞれ一人の研究者を公募し、2 年間の研究期間にわたり、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公表している。

これまでに 14 編の報告がなされ、2 編は現在継続中、本年度は新たに 2 課題の委嘱研究者を決定した。

平成 15 年度は、研究成果として第 7 回の第 1 課題「コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」（委嘱研究者 土生珠里）について最終報告がなされた（概要を pp.70～75 に掲載）。

また、新たに 2 課題について公募し、8 名の応募者の中から選考の結果、第 9 回目として 2 名の研究者に研究を委嘱した。研究課題と委嘱した研究者は次の通りである。

平成 15 年度の新たな研究課題と委嘱研究者

第 9 回第 1 課題：「韓国における土地区画整理手法の変遷」

アジアでは、日本に類似して韓国が土地区画整理手法の経験がある。しかし、韓国の区画整理をめぐり「区画整理は私的還元が大きすぎ、公平性に欠けるので中止された。」その政策決定のプロセスを分析する。そして、わが国への示唆をまとめる。

朴 承根（株式会社 富士総合研究所）

第 9 回第 2 課題：「レッチワース田園都市の財政状況の歴史の変遷の分析」

レッチワース田園都市は完成して既に 100 年を経ているが、その百年の歴史は財政難との戦いの歴史でもあった。初期の民間資金導入の議論、1946 年ニュー・タウン法をめぐる一連の論争、1960 年代の民間投機の高騰等に焦点をあて、田園都市建設プロジェクトの経営的側面を分析する。

中井 検裕（東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授）

表 研究課題および委嘱研究者

(肩書きは最終報告時)

第 1 回 1994 年度	第 1 課題 「業務拠点都市・クロイドン開発の歴史的経緯」 西山 康雄 (東京電機大学 建築学科 教授)
	第 2 課題 「Milton Keynes における自動車の利用と道路計画に関する実証的研究」 高橋 洋二 (東京商船大学 流通情報工学科 教授)
第 2 回 1995 年度	第 1 課題 「Hammerfest の戦後復興における市街地整備に関する研究」 谷口 守 (岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 講師)
	第 2 課題 「キティマツ リソース・フロンティアにおけるサステナブル・ディベロップメントの可能性」 榎戸 敬介 (株式会社 アーバンハウス都市建築研究所 研究員)
第 3 回 1996 年度	第 1 課題 「地方空港の歴史と将来 シャノン・ガンダー・中標津」 田村 亨 (室蘭工業大学 助教授)
	第 2 課題 「新首都の誕生と成長 Canberra の 100 年」 岸井 隆幸 (日本大学 理工学部 土木工学科 教授)
第 4 回 1997 年度	第 1 課題 「田園地帯の計画と保全 田園都市論の影響と今日的意義」 風見 正三 (大成建設 設計本部 環境デザイングループ)
	第 2 課題 「ロンドン・ミューズの誕生・死・再生 世界の都心居住空間の再生を目指して」 宇高 雄志 (広島大学 工学部 建築学科 助手)
第 5 回 1998 年度	第 1 課題 「ローマ市郊外と東京都市圏の大型ショッピングセンター形成化にかかわる比較研究」 堀江 興 (新潟工科大学 大学院 教授)
	第 2 課題 「メキシコの小都市メクスカルティトランの都市の自立性とその将来について」 斉藤 麻人 (ロンドン大学 政治経済学院 地理環境学部 大学院)
第 6 回 1999 年度	第 1 課題 「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」 勝又 太郎 (株式会社 東京三菱銀行 ストラクチャードファイナンス部)
	第 2 課題 「欧州と日本における港湾と企業物流の動向」 土井 正幸 (筑波大学 社会工学系 教授)
第 7 回 2000 年度	第 1 課題 「コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」 土生 珠里 (九州大学大学院 人間環境学研究科 空間システム専攻 社会人博士課程)
	第 2 課題 「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」 村上 睦夫 (株式会社 都市プラン研究所 代表取締役)
第 8 回 2002 年度	第 1 課題 「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析」 服部 圭郎 (明治学院大学 経済学部 講師)
	第 2 課題 「『サッチャリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察」 東 秀紀 (清泉女学院大学 人間学部 教授)
第 9 回 2003 年度	第 1 課題 「韓国における土地区画整理手法の変遷」 朴 承根 (株式会社 富士総合研究所)
	第 2 課題 「レッチワース田園都市の財政状況の歴史的変遷の分析」 中井 検裕 (東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授)

IBS フェロウシップ実施要領 (抜粋)

- 課題は毎年原則として 2 課題とし、それぞれ、1 名の研究者に委嘱する。
- 研究者は、学歴、職歴を問わないが、海外生活経験者を原則とする。
- 募集は関係機関 (大学、団体、学会その他) 機関紙・誌等を通じての公募とし、運営委員会の選考を経て、研究者を決定、公表する。
- 選考された研究者は、以下の報告の義務を負う。
 - ① 選考された年の IBS 創立記念研究発表会 (通常 7 月 14 日) に研究方法の概要を発表
 - ② 2 年目の同発表会に中間報告を発表
 - ③ 同年度末までに最終報告書を提出
 - ④ 3 年目の同発表会に最終報告を発表
- IBS は、提出された最終報告書を 3 年目の発表会で公表する。
- 上記以外の研究成果の発表は研究者の自由である。
- 提供する研究費は毎年定めるが、その用途についての制限は設けない。研究者が研究費により入手した資料の所有権は研究者に帰属する。